

第1回統合イノベーション戦略推進会議 議事録

1. 日時 平成30年7月27日（金）9：25～9：37

2. 場所 総理大臣官邸2階小ホール

3. 出席者

議長	菅 義偉	内閣官房長官
議長代理	松山 政司	内閣府特命担当大臣（科学技術政策、知的財産戦略、宇宙政策）兼 情報通信技術（IT）政策担当大臣
副議長	茂木 敏充	健康・医療戦略担当大臣 兼 経済再生担当大臣 兼 内閣府特命担当大臣（経済財政政策）
同	福井 照	内閣府特命担当大臣（海洋政策）
構成員	野田 聖子	総務大臣
同	上川 陽子	法務大臣
同	河野 太郎	外務大臣
	（佐藤 正久	外務副大臣 代理出席）
同	麻生 太郎	財務大臣 兼 内閣府特命担当大臣（金融）
同	林 芳正	文部科学大臣
同	加藤 勝信	厚生労働大臣
同	齋藤 健	農林水産大臣
同	世耕 弘成	経済産業大臣
同	石井 啓一	国土交通大臣
同	中川 雅治	環境大臣
同	小野寺五典	防衛大臣
同	吉野 正芳	復興大臣
同	小此木八郎	国家公安委員会委員長
同	鈴木 俊一	東京オリンピック・東京パラリンピック競技大会担当大臣
	西村 康稔	内閣官房副長官
	野上浩太郎	内閣官房副長官
	杉田 和博	内閣官房副長官
	和泉 洋人	内閣総理大臣補佐官

4. 議題

- （1）「統合イノベーション戦略推進会議」について
- （2）その他

5. 資料一覧

- 資料1 統合イノベーション戦略推進会議について
資料2 統合イノベーション戦略の実行に向けて

- 資料3 「イノベーション政策強化推進のための有識者会議」の設置について（案）
資料4 「イノベーション政策強化推進チーム」の設置について（案）
参考資料 統合イノベーション戦略推進会議の設置について

6. 議事

【松山科学技術政策担当大臣】

定刻となりましたので、第1回統合イノベーション戦略推進会議を開会致します。

先月閣議決定されました「統合イノベーション戦略」におきまして、イノベーション関連の司令塔機能の強化を図る観点から、特に関連の深いC S T I、I T本部、知財本部、健康・医療本部、宇宙本部、海洋本部、この6つの本部につきまして、官房長官を中心とした横断的かつ実質的な調整・推進機能の構築が必要であり、このため、新たに「統合イノベーション戦略推進会議」を設置するということが盛り込まれました。

これを受けて、今般、内閣総理大臣決定により、本会議を設置するということにしましたものでございます。

本日の会議は、そのキックオフとなります。関係大臣の協力をお願いさせていただきたいと思っております。

それでは、議事に入ります。

一つ目の議題ですが、「統合イノベーション戦略推進会議について」です。

まず、和泉総理大臣補佐官から説明をお願い致します。

【和泉内閣総理大臣補佐官】

お手元の資料1「統合イノベーション戦略推進会議について」の1ページ目を御覧ください。

統合イノベーション戦略は、総合科学技術・イノベーション会議が中心となって策定してきました。今後は、着実に本戦略を実行していく必要があります。そのためには、各司令塔・各省庁間の更なる連携が鍵となっています。

そうした中、本推進会議はイノベーション関連の司令塔機能の強化を図る観点から、官房長官を中心とした横断的かつ実質的な調整・推進機能を構築するために設置されました。本推進会議を通じて、本戦略の中身を実現していく必要があります。

本推進会議の実効性を高めるため、A Iのような専門的な事項の調査を行う会議として「イノベーション政策強化推進のための有識者会議」、各府省庁の実務者によるチームとして「イノベーション政策強化推進チーム」を設置し、官民の英知を結集した、機動的に推進する体制を構築したいと考えています。

さらに、この推進チームの中で、主要テーマごとにタスクフォースを設置していく予定であり、こうした各種会議を有効に機能させ、政策を統合して大胆な政策を迅速かつ確実に実行していきたいと考えております。

2ページ目を御覧ください。特に、イノベーション関連の司令塔間で調整・推進が必要な当面の事項の例について、本戦略のテーマごとに御説明します。

「知の源泉」につきましましては、社会分野から公的分野に至るまでのデータ基盤の全体構造を提示し、今後整備される各分野のデータ基盤がその枠組みに準拠されるようにしていく必要があります。

また、相互運用性の確保や標準化、オープン・アンド・クローズド戦略等の知的財産戦略、

個人情報保護等の関係ルールの整備、データ提供インセンティブの仕組みの構築を行っていく必要があります。

「知の創造」については、限られた資源の中で、最大限に効率的・効果的に取組を推進できるように、研究開発マネジメント改革を行うことが重要です。

また、ムーンショット型の研究開発制度の創設のための検討を行い、世界中の英知を結集し、より野心的な構想の下で、失敗も許容した非連続的なイノベーションを生み出す研究開発を継続的・安定的に推進していく必要があります。

3 ページ目を御覧ください。「知の社会実装」については、データ基盤の全体設計に基づき、自動走行や健康・医療・介護等の様々な分野における Society 5.0 の実現に向けた社会実装を行うとともに、大学、企業等を巻き込んだ日本型のベンチャー・エコシステムを構築していく必要があります。

「知の国際展開」については、各国のSDGs 達成の模範となるロードマップの策定や、国内外のニーズに合わせて我が国の技術シーズ等を展開できるように、官民を連携した仕組みの構築を行っていく必要があります。

「強化すべき主要分野」については、AI 分野では、世界の動向を見据えて抜本的に対策を強化する必要があります。具体的には、桁違いの規模での人材育成、これまでの発想にとられない技術開発等を行う必要があります。

また、バイオテクノロジーの分野では、医療・非医療が一体となった新たなバイオ戦略の策定、安全・安心分野では、国及び国民の安全・安心の確保を図るため、「知る」「育てる」「守る」「生かす」の取組を推進していく必要があります。

こうした事項の調整・推進に当たっては、「フラッグシップ・プロジェクト」「大胆な規制・制度改革」といった他の戦略に盛り込まれた横断的な関連事項とも一体的に検討をしていく必要があります。

以上でございます。

【松山科学技術政策担当大臣】

只今、和泉総理大臣補佐官から説明があったとおり、「統合イノベーション戦略推進会議」の下に、「イノベーション政策強化推進のための有識者会議」及び「イノベーション政策強化推進チーム」を設置し、さらにこのチームの中で主要テーマ毎にタスクフォースを設置することで、実務的なサポート体制を構築したいと考えております。

原案のとおり、有識者会議と推進チームを設置することにつきまして、御了承いただけますでしょうか。

(異議なし)

【松山科学技術政策担当大臣】

有り難うございます。

それでは、原案のとおり決定させていただきます。

次に、二つ目の議題として、資料2「統合イノベーション戦略の実行に向けて」について、和泉総理大臣補佐官から説明をお願い致します。

【和泉内閣総理大臣補佐官】

お手元の資料2「統合イノベーション戦略の実行に向けて」の1ページ目を御覧ください。

本戦略の着実な実行に向け、これらの事項を始めとする本戦略に盛り込まれた取組について、平成31年度予算において所要の規模の予算が確保できるよう、メリハリの付いた予算とすべく、CSTIと関係府省庁が協力して検討することが重要です。

2ページ目を御覧ください。我が国がイノベーションで世界と伍していくため、官民を挙げて投資拡大に取り組む必要があります。平成30年度は、下段のとおり、約2,500億円増でした。引き続き、平成30年度より開始した政府事業のイノベーション化の取組の更なる拡大、他省庁の先駆的取組の取り込み等を進め、民間投資の呼び水となる政府研究開発投資について、対GDP比1%を目指して拡大していくことが必要でございます。

以上であります。

【松山科学技術政策担当大臣】

それでは、関係大臣から御発言いただきたいと思いますが、時間も限られておりますので、御配慮をお願いしたいと存じます。

まず、私の方から一言申し上げます。

私の方はCSTIの他に、知財、IT、宇宙の四つの司令塔会議を担当しております。いずれの司令塔本部もイノベーションに関連した施策を実施しており、大変重要な役割を担っております。

統合イノベーション戦略にも盛り込んだデータ連携やAIの利活用などは、関係司令塔本部、関係省庁が一丸となって進めていく必要がございます。

私も四つの本部の担当大臣として、Society 5.0の実現に向けて、施策の全体の最適化が図られるよう、取り組んでまいりたいと思います。

それでは、まず、福井海洋担当大臣、お願い致します。

【福井海洋政策担当大臣】

本年5月に閣議決定されました第3期海洋基本計画に基づきまして、各司令塔と連携をして、政府一丸となって海洋政策を推進しております。

例えば、海洋状況把握(MDA)に関する取組に当たりましては、宇宙から海洋を把握するという観点から、宇宙開発戦略本部と連携しております。

また、総合科学技術・イノベーション会議と連携をいたしまして、海洋資源調査に自律型無人探査機(AUV)の技術等を活用するSIPを推進しております。

今後とも、各司令塔との連携を強化しつつ、海洋政策を進めてまいり所存でございます。

以上でございます。

【松山科学技術政策担当大臣】

次に、麻生財務大臣、お願い致します。

【麻生財務大臣】

財務省としても、この日本の将来にとってイノベーションの重要性というのは、これは重々認識をしておりますので、厳しい財政事情の下であります。科学技術関係の予算というのは、主要先進国に比べて比肩するような水準だと思っております。問題は予算の多寡もありますが、研究現場、例えば大学における他の大学との協調性、競争性、開放性、国際性という、これは

日本の場合かなり乏しいのではないか。

また、質の高い論文数が、日本の場合、いわゆるトップ10%の論文を1件生み出すに当たって必要な研究開発費が、日本は600万ドル、ドイツは340万ドルという数字が挙がっています。こういった研究開発の生産性が低いということは言えるのではないかと思うので、是非このアウトカムを目標とすることで生産性を高めてもらいたいと思っています。

もう一つ、財政健全化というものの例でいえば、これは関係省庁の中で既に実施されている研究開発の中身を徹底的に見直してもらいたいと思います。例えば、自動車のエンジン。これは実装性に近いものがかかなり出てきているにもかかわらず、政府の研究開発費は19億で、民間から出ている費用は4億です。実装性が近いなら、逆でないとおかしいと思います。

そういった意味では、研究開発というような問題は、挑戦的なものにシフトするといったリソースの配分を是非やっていただきたいと思っていますので、皆さん方の御努力に期待します。よろしく申し上げます。

【松山科学技術政策担当大臣】

有り難うございました。

ほかに、御発言はございますでしょうか。

それでは、最後に菅官房長官から御挨拶を頂きたいと思います。

ここからプレスを入れさせていただきます。

(プレス 入室)

【松山科学技術政策担当大臣】

それでは、菅官房長官、お願い致します。

【菅官房長官】

先月開催されました、総合科学技術・イノベーション会議において、総理から、統合イノベーション戦略を内閣の成長戦略のど真ん中に位置付け、関係大臣は、これまでの発想にとらわれない大胆な政策を、一丸となって迅速かつ確実に実行すべきであると、こういう指示がありました。

イノベーション・エコシステムの早期確立を図るため、各司令塔会議におけるイノベーション関連政策が全体最適効果をもたらすよう、政策を統合し、今までのやり方を抜本的に見直します。

関係大臣におかれては、その方針の下に関係施策に積極的に取り組んで頂くとともに、これを支える事務局体制の構築にも是非協力をお願いしたいと思います。

統合イノベーション戦略を迅速かつ確実に実行するため、無駄な予算を排除するなど、メリハリを付けつつも、政府事業・制度のイノベーション化を含め、政府研究開発投資の拡大の実現に向け、概算要求において最大限の努力をお願い致します。

以上です。

【松山科学技術政策担当大臣】

有り難うございました。

それでは、プレスの方はここで退室をお願いいたします。

(プレス 退室)

【松山科学技術政策担当大臣】

本日の議事は以上でございます。

本日の資料及び議事録は、公表させていただきます。

以上で会議を終了させていただきます。御協力有り難うございました。

以上